

## CONTENTS

▼シリーズ「CNCP設立  
10周年を迎えて」  
・会員からの声（3）

▼土木に関わる人  
と活動  
▽キラ★どぼ  
・大沼さん

▼土木のはなし  
▽これも土木  
・お城における土  
木の話（5）  
：大友正晴

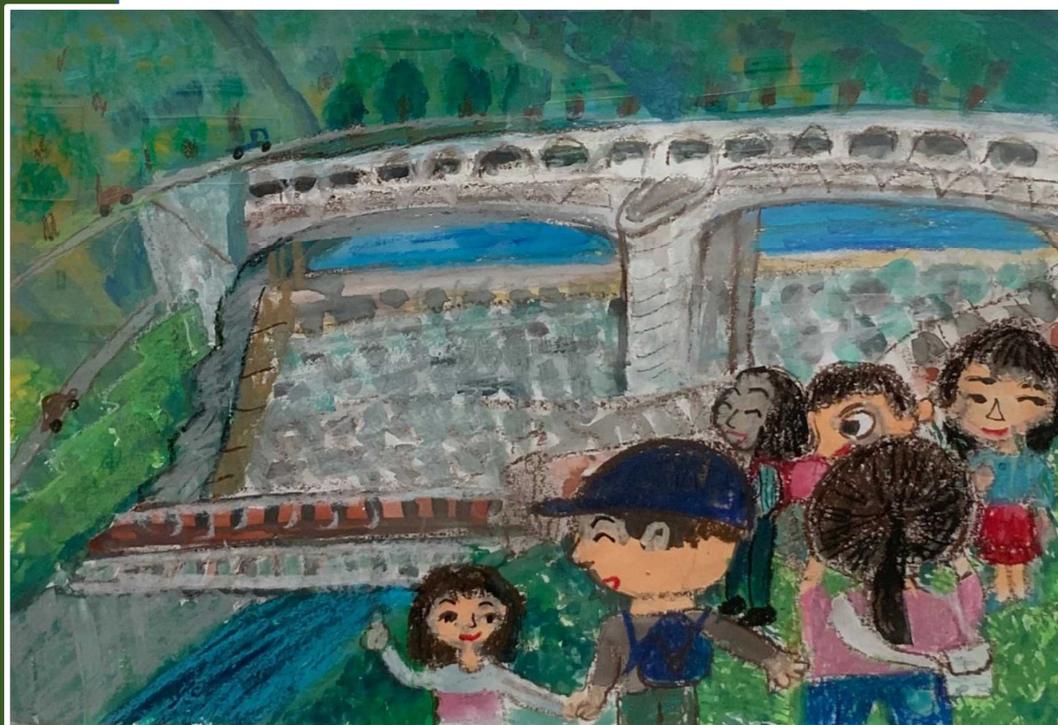
▼フレンズ  
・安藤ハザマの地  
域社会との調和  
：伊藤桃

▼事務局通信

# CNCP通信

VOL.119／2024.3.5

## ■今月の土木■



●安藤ハザマ賞「畑の水を守るダム」羽村衣桜さん・小学校3年生



●科学技術振興プログラム  
（つくばちびっ子博士）



●高校生による企業訪問

### ■安藤ハザマの地域社会との調和

当社は、未来を担う若い世代に向けた、教育・文化の担い手としての活動に多面的に取り組んでいます。

全国の小学生以下を対象とした「未来へつなごう！ふるさとの水土里みどり子ども絵画展」（主催：国土改良事業団体連合会、都道府県土地改良事業団体連合会）に毎年協賛しており、「安藤ハザマ賞」を選定しております。この絵画展は、子どもたちに田んぼや畑、農村に関心を持ってもらい、「田んぼや畑」「農業用ため池」「農業用水路」などの風景や、大切な水路を守っている人たちの姿を通して、水の循環や環境保全への理解を促すことを目的に開催されています。

（伊藤桃）

▼フレンズコーナーに続く。



## ▼シリーズ「CNCP 設立 10 周年を迎えて」

## 会員からの声 (3)

CNCP 通信は、2014 年 5 月号の発刊から毎月欠かすことなく発行し、今度の 4 月号(Vol.120)で、ちょうど 10 年になります。これを機に、現在の正会員と理事・監事の皆様から、お言葉をいただきました。CNCP の設立準備から関わってこられた先輩方も数多くいらっしゃいます。当時は振り返った話、思い出、お祝い、将来に向けた期待など様々。是非お目通しを。

【掲載は届いた分の 50 音順】

●岩橋公男 (CNCP 理事/佐藤工業(株))

CNCP 設立 10 周年を迎え、関係者のみなさま、おめでとうございます。

昨年、縁あって理事になったばかりの新米です。CNCP という組織があり、型にはまった活動ではなく、純粋に土木の社会貢献を真剣に考えることができることに感謝をしているところです。私は、「土木」が、「現場」が大好きでこの業界に入って 33 年間、現場で働いてきました。皆様とは違った目線で、現場という前線での視点から参加できればと考えています。今後ともよろしく願いいたします。

●大田弘 (CNCP 個人正会員/元 CNCP 理事/(株)熊谷組)

10 周年、おめでとうございます！山本卓朗さん、青山俊樹さんからお声が掛かり、設立メンバーの理事として名前を連ねました。当時は未だ具体的な活動や組織が議論の途上、特に財政基盤が乏しく、多くの課題を抱えた船出だったと記憶しています。

日建連活動で親交が深かった企業に呼びかけ、何社かに法人会員になって貰いました。総じて個社の社会貢献の PR に直接繋がることには熱心なのですが、土木界全体としての共生(ともいき)には心が及ばない時代であったと思います。世間から「土木技術は世界一」と評価されるも「業界地位」が高くない理由を垣間見ました。

今は生まれ故郷の富山で大半を過ごしています。「恩義、信義、大義といったお金には代え難い大切なことを社会の片隅に追いやった」我が世代の大罪を悔やみつ、「黒部ダム」などの語り部もどきをやっています。

更なるご発展をお祈り致します。

●奥田早希子 (CNCP 理事/一般社団法人 Water-n/インフラテクコン実行委員会)

CNCP 設立 10 周年、おめでとうございます。

私は業界紙記者として 11 年間、フリーになってからも水インフラ関係の記者活動を 20 年以上続けています。当然ながらインフラの未来に関心はありましたが、当時は「記者として」。それがとあることがきっかけで、一人の生活者としてももっと関心を持ち、関与しなければならないと思うようになりました。

ある日、家からほんの数メートルの所に困った様子の高齢のご婦人がいたので声をかけたところ「道に迷った」とのこと。名前を聞いても「分からない」、住所を聞いても「分からない」。警察に連絡しようとした時にご主人が来られ、無事に連れ帰られました。それがなんと、目の前の家だったんです！こんなに近所の方の顔も知らなかったのか、と愕然とするやら恥ずかしいやらです。これではいざという時に助け合うことはできません。何から何まで行政任せにしていけないと痛感した次第です。

CNCP ではこれからも、行政や企業、地域、生活者などが一緒にまちやインフラを守り・使い、価値を創造し続けられるようなきっかけづくりに取り組んでいきたいと思っています。

●木村達夫 (CNCP 個人正会員/前 CNCP 監事/NPO 法人あそ地下足袋倶楽部)

エッ！ CNCP もう 10 年も立ったんだ。過ぎ去った過去の一昔は、アッという間のことだという事。CNCP の基礎を作るべく、5 年も前から活動していたワーキンググループの皆さんの思いもひとしおだと思っています。

設立時に合わせ、会の名称を決める時も、1～2の別名も候補にありましたが、圧倒的な数でCNCPに決定したのを記憶しています。

コロナ禍の前になりますが、会員の皆さんの投稿数から比べると、恥ずかしい限りですが、CNCP 通信へ数回、投稿したこともあります。

最後になりますが、何といたっても会員の皆さんの「CIVIL、築土構木、どぼく、ドボク」、土木「愛」には感激しています。

これからも健康第一で。

#### ●花村義久 (CNCP 個人正会員/元 CNCP 副代表理事/NPO シビルまちづくりステーション)

え！もう10周年ですか。私がNPOを立ち上げたのは、退職してその翌年2015年でした。当時公共事業に対する社会の目が厳しい時でしたが、NPO法が確か2008年に公布され、この世界の道が開けて来たという期待が生まれた時でもありました。何を何処からどうやるか暗中模索でしたが、ただ社会の流れから、建設分野では従来の社会構造に対し第3セクター的な存在が必要であるということは、漠然とはありますが感じ取れました。

中央集権から地方分権によるまちづくりをNPO活動として模索する中、建設に対する一部の否定的なとらえ方から「市民参加」、そして「市民協働」という認識の変化が生じてきました。ただ、建設分野はスケールが大きく、弱体なNPO組織ではどうしようもないことは明白です。土木学会100周年の事業の一環としてのCNCPの誕生は、このような状況の中で、われわれに光をさしてくれたことでもあります。

この組織は生まれた後も何度も塗り替えられ、組織は確実なものに磨き上げられました。私自身このような場を通じていろいろな方と出会い、貴重な多くの体験ができたことに大変有難く思っています。この多様化の時代、連携とこれを支えるプラットフォームの役割は、今後ますます、何にも代えがたい存在となっていくのではないのでしょうか。

#### ●林康雄 (CNCP 法人正会員/(一社)未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォーム)

未来構想プラットフォームを代表して、この度のシビルNPO連携プラットフォームの設立10周年に、お祝いを申し上げます。

CNCP設立の趣旨に記されたとおり、「行政や企業、教育・研究機関、そして地域・市民組織とのパートナーシップを通じて、より良い地域社会の構築を目指す」という活動、とりわけ市民と土木を近づける取り組みに大いに敬意を表させていただき次第です。

弊会の活動範囲は皆さまよりもまちや交通、鉄道に少し分野が特化していますが、真に必要な社会資本プロジェクトを議論したり、若手関係者への技術継承に取り組むなど、引き続き活動を進めてまいります。今後ご指導と交流をお願いして、お祝いの言葉とさせていただきます。

#### ●福林良典 (CNCP 法人正会員/NPO 法人道普請人)

CNCP 通信発行10年、おめでとうございます。建設系NPOとして、これからもともに成長していくことができればと思います。

#### ●依田照彦 (CNCP 個人正会員/元 CNCP 理事/早稲田大学理工学術院名誉教授)

シビルNPO連携プラットフォームと土木学会のコラボレーションで開催されたオープンキャンパス土木学会2019のお手伝いをさせていただいた折、記念資料の展示コーナーで、展示品の説明者としてCNCPの現在の事務局長である田中努様にご協力をいただいたことが強く印象に残っています。「話せばわかる」ではなく、「話せばわかる」を実感した瞬間でした。土木学会のオープンキャンパスの会場で、子供から大人まで土木を楽しんでいる様子は、CNCPの基本テーマ「土木と市民社会をつなぐこと」の具現化そのものでした。市民社会とともに歩むCNCPの活動がこれからも楽しみです。

## ▼土木と市民社会をつなぐフォーラムから新連載

## キラ★どぼ



はじめまして！キラ★どぼです。このたび、インフラ分野で働く人に仕事の楽しさややりがいを語っていただく不定期連載インタビュー企画「インフラで働く人のキラキラ笑顔を伝えたい！」が始まり、インタビュアーを仰せつかりました。第4回はコミュニティ防災に取り組んでこられた国土防災技術株式会社技術本部・技術推進部で働く大沼乃里子さんを突撃しました。次はあなたのところに行くよ！



## キラ★どぼ NO.4：大沼乃里子さん

国土防災技術株式会社技術本部・技術推進部（2024年2月1日取材当時）

★こんにちは。大沼さんが以前に所属されていた「コミュニティ防災課」って始めて聞きました。どのような仕事をされているのですか？

地域コミュニティの防災計画である地区防災計画の作成などをお手伝いしています。社内でパソコンに向かっていてもありますが、ワークショップなどで地域の人と話す機会が多いです。

★私たち一人ひとりが防災に関して心がけるべきことはありますか？

災害を自分のこととして考えることがひとつ。ですから業務上では地区防災計画にしても、作って終わりにせず、避難訓練をやって

みて、実態にそぐわないところは計画を見直すことを大切にしています。

ふたつめは「ダムや樋門などの土木構造物があるから絶対に安全」とは思わないこと。絶対はありませんからね。ただし、土木構造物には土木の英知が詰まっています、なぜそこに構築されたのかを知ることが、災害時にどこのエリアがどうなるかを知ることにもつながるんですよ。そうしたことを地域の方と一緒に学んだり、ハザードマップを見ていただいたり、過去の災害に学んだりして、いつか降りかかる災害を身近に感じられるように、いざという時に適切な行動を選択できるように一緒に考えています。

★それも土木なんですね！

土木によって構築された構造物の中で、安全に暮らしていくための支援をするのが防災です。だから、これも土木なんですよ！

★大学時代は土木専攻だったのですか？

いえいえ、全く違って、教養学部国際関係論コースで国際協力のゼミに所属し、紛争後の平和構築について研究していました。国内紛争で和平協定が結ばれても、地域には対立構造が残ります。地域コミュニティレベルでいかに平和を構築するか。そこで重要だと感じたのは、地方政府と地域コミュニティがしっかりとコミュニケーションできる関係性でした。

実はそれは地域防災と共通しているんです。災害に強い地域コミュニティは、地域防災計画に基づいて安全なまちづくりを実現する自治体と、地域の資源を生かした住民主体の共助の取組が、有機的に連携することによって成り立つ。私の役割は、両者の良いコミュニケーションを実現するお手伝いですね。

★紛争後の平和構築と防災。全く異なる領域なのに、共通項をきちんと見出して業務に活かしているなんて素敵です。行政と住民って時に対立することもあります、大沼さんがその潤滑油になってくれるんですね。

コミュニケーターというのでしょうか。土木と社会、自治体と地域コミュニティをつなぎ、それぞれにいい方向を見出せるようにお手伝いしていきたいです。

## ★良いコミュニケーションにとって大切なことは何ですか？

防災も平和も、安全・安心な暮らしのための行動を行政任せにするのではなく、まずは自分で自分の身を守り、地域住民同士で支え合おうという自助共助の精神だと思います。それが本来の地域のあり方ではないでしょうか。

約10年前に青年海外協力隊員として中米コスタリカで地域防災活動の支援に取り組んでいました(写真1)。コスタリカと比べて日本では行政主導の防災が当たり前という認識が強く、私たち一人ひとりの安全に対する主体性が掛けていると感じています。

いざというときに助け合い必要な支援を求められる関係性をつくるために、普段から何らかの形で地域コミュニティとつながっておくことが大切だと思います。



写真1：コスタリカの地域コミュニティでの防災ワークショップの様子（奥右から2人目が大沼さん）

## ★印象に残る仕事を教えてください。

2018年に手掛けた、北海道から九州までのモデル地区における地区防災計画の取組支援の仕事です(写真2)。各地区における支援と並行して、他地区の事例を学び合う機会を企画・実践したところ、ある地区が他地区からヒントを得て、自ら活動の幅を広げることができるようになったのです。この時にも学生時代の学びを活かすことができました。

実は学生時代に東ティモールで、紛争により夫を亡くした女性を支援する国際協力 NGO を立ち上げました(写真3)。国際協力では、「支援する側」が一方向的に与えるだけでは、いつかの支援で終わってしまい、「支援される側」が本来目標とする生活改善に結びつかない。本当の国際協力は、自立できる仕組みと自立しようという意識をつくることだと学びました。

地域防災も同じです。私たち外部の支援者が関与できるのは1年間にも満たないですから、私たちがいなくなっても、地域が自立して、自律的に活動を継続・発展させ、防災計画を改善していかなければ、いざ災害が発生したときに役に立たない。そのために少しは役に立つことができたと思える仕事でした。



写真2：北海道知内町でのワークショップの様子（写真中央で立って指を差しながら説明しているのが大沼さん）



写真3：学生時代に国際協力 NGO を立ち上げ、東ティモールで紛争によって夫を亡くした女性を支援。その経験も今の仕事に活かされているそうです（写真はプロジェクト対象者との会議の様子）

★土木構造物があるだけでは意味がなく、人が使いこなしてこそ価値があります。大沼さんの取り組みは、そんな人を地域で育てる仕事でもあるんだなと思いました。

そうかもしれませんね。社会関係資本という考え方があって、人と人との関係性が地域コミュニティの基盤を作っている。土木はインフラという社会基盤を作っていますが、基盤という点では、やっぱりこれも土木なんです。

★素敵なお話をありがとうございました（^^）

## ▼これも土木

## お城における土木の話（5）

アジア航測株式会社事業推進本部  
社会インフラマネジメント事業部

大友 正晴



今回は、お城と言えば石垣と誰もが思い浮かべるとと思います。先ずはその石垣の積み方についてです。

## ■ 石垣の歴史

石垣は世界中どこでも造られて来ました。ヨーロッパなどでは、お城の壁はもちろんのこと、家・館を造るのにも石が使われて来ました。

一方、日本では石より木材の調達が容易であったこと（温暖で多雨のため）で家屋は木造が主体でした。しかし、日本は傾斜地が多く畑や田んぼを造るためや、家屋を建てるために石を積んで平地を造る必要がありました。今でも山間地などに行くと段々畑や家屋の建つところに石が積まれているのを見かけます。小田原の石垣山（秀吉の一夜城で有名ですね）の山には、石垣が多数見られます。

これらの石垣は、川や山に転がっていた石を持ってきてそのまま簡単に積んでいるように見えます。そのため崩れやすいものでもあります。その後、お城の石垣等で石を積むうえで簡単に崩れない積み方が工夫され積み方も発展してきました。

## ■ 石垣の積み方

始めに石垣の積み方には、空積みと練積みがあります。練積みとは、石をコンクリートやモルタルを使って接着した積み方で、現在多くの石積みで見られる工法です。一方、空積みとは接着剤を使わずに、石を積み上げる工法で、お城の石垣はみな空積みでできていました。

それでは、石垣の積み方は以下の積み方が代表的です。

野面積み：自然石をそのまま築石として積む工法のこと。

自然石なので形が不ぞろいであるため、どうしても石と石の間に隙間ができます。そのため、敵に上られやすいという欠点があります。一方、隙間があるため排水性に優れ頑丈であると言えます。隙間を埋めて積みやすくするために調整材として間詰め石（懐石）をはさみクッション材としての機能により強度に貢献しています。

穴太積み：野面積みのことですが、とくに穴太衆が築いた石垣の事を指します。穴太衆とは、近江の国、比叡山山麓坂本の穴太の里に暮らしていた石工の事です。古くから石工としての技術を持つ職人集団で、穴太積みは堅固で織豊時代には城郭の石垣構築に引っ張りだかとなっています。

打ち込み接ぎ（うちこみはぎ）：石の加工技術が始まると、自然石の角を削ったり面をたたくなどして石同士の間隙をできるだけ減らすことができるようになりました。石のかみ合わせがよくなったことで、野面積みより高い石垣が築けるようになりました。関ヶ原の戦い前後から多く使われたと言われています。



松本城の野面積み



小倉城の穴太積み

切り込み接ぎ（きりこみはぎ）：さらに石垣加工技術が向上して築石を密着するように加工して積み上げる工法。石が密着しているため、地震などで石が割れたりすることもあり、強度的に優れているとは言えないが、見た目は美しい積み方であります。大坂の陣のあとに普及したとのこと。



大阪城の打ち込み接ぎ



大阪城枡形で見られる切り込み接ぎ

これらが石垣の代表的な積み方です。これらが石の加工技術の発達に伴うものでしたが、積み方の形状で次の工法もあります。

布積み：築石の大きさ、かたちを方形に揃え横一列に通るように積み上げる工法で整層積みとも呼ばれています。目地が通ることから強度的に問題があります。

乱積み：形や大きさの不ぞろいの築石を不規則に積んだ石積みの事。乱層積みとも言い、布積みの発展型と言われており、目地が通らないので布積みより崩れにくいと考えられる。

ここまででは一般的によく知られた石垣の積み方でした。石垣の積み方には他にも種々あります。私が、石垣に関わる仕事をした際の石垣の師匠と言える方にいろいろ教わりました。その師匠と小田原城の石垣を見ていた師匠から「**甲州積み**がありますね。」と言われました。甲州積みとは、言葉通り甲州つまり武田家に伝わる石垣の積み方です。特徴は、小さいアーチ状に石を積むものです。小田原城は、もともとは後北条氏の城として構築された城ですが、家康の関東入府と共に本多氏が入城しています。おそらく武田家の旧家臣が徳川家や本多家に仕え甲州積みをする石工などを連れてきて石垣の修復や構築をしたのではないかと想像されます。

## ■ 出隅・入隅

石垣の積み方で特徴的なところがあります。お城の石垣を構築する上地形等に合わせるために角ができます。この角で突出・出っ張ったところを出隅、この反対に凹むようになったところを入隅と言います。実は、この曲がり角・隅は構造的に重要で、ここがいい加減だと石垣は崩れやすくなります。そこで、出隅には、算木積みと言って長めの石を交互に積む工法が使われるのが普通です。

右の写真は小田原城中堀で復元された銅門に向かう土橋部分の石垣です。左側の白丸が出隅で算木積みを確認頂けると思います。算木積みは、ゲームのジェンガの重ね方が算木積みと同様で参考になります。右側の白丸は入隅です。

熊本地震で話題となった**奇跡の一本石垣**は、出隅の算木積み部分が残ったもので、構造的に頑丈だったことが証明されたと思います。



以上、石垣の積み方についてお話ししましたが、次回でもう少し構造などの話にて最終回とします。

## ▼フレンズコーナー

## 安藤ハザマの地域社会との調和

～社会貢献活動・文化貢献活動・地域創生～

株式会社 安藤・間  
コーポレート・コミュニケーション部  
伊藤 桃

## ■基本的な考え方

「ものづくり」の現場は、地域の皆さまとの日常的な協力関係の上に成り立っています。

当社は、地域社会を構成するさまざまなコミュニティに対する貢献を継続的に展開し、企業市民としての責任を果たしています。地域が抱える少子高齢化や地域経済の縮小などさまざまな課題解決に向けて、脱炭素化、雇用創出などをはじめとする地域の魅力を高める新たなソリューション提供を推進し「地域創生」に取り組んでいます。

## ■社会貢献活動

## 1. 技術研究所のPR活動

茨城県つくば市に1992年に開所した技術研究所では、四半世紀以上にわたって技術・研究開発を行っています。開所以来、多様なお客様をお招きし、市民の方々の生活基盤がどのように作りあげられているかについて、当社のみならず建設業界全体PRを行っています。

例年、一般市民を対象とした研究所見学会（文部科学省主催、科学技術週間）を開催しています。2023年は、国際協力機構（JICA）からの協力要請を受けて、ドミニカ共和国の建築およびインフラの耐震化に係る機関に携わる研修生向けの見学会も実施しました。特に当社の建築系耐震技術に対して非常に強い興味を持っていただきました。



●見学会の様子



●ドミニカ共和国の技術研修風景

## 2. 「可能性アートプロジェクト」への賛同

当社は、ESG経営の一環として、TOPPANホールディングス株式会社と特定非営利活動法人サポートセンターどりーむ、一般社団法人障がい者アート協会の三者が共同で取り組んでいる「可能性アートプロジェクト※」に賛同し、多くの方が目にする建設現場の仮囲いを作品公開の場として活用しています。2024年1月末時点で全国で累計40か所の現場に展開しており、着実に数を増やしています。障がい者アーティストへの経済支援額も毎年増加しており、障がい者の社会活動への参加および経済的自立に大きく貢献しています。

※：障がいのあるアーティストの描くアート作品（可能性アート）を価値化し、社会的課題解決（障がい者の自立支援）と経済的事業活動の両立を目指す取り組み。



●仮囲いに描かれた作品

## ■文化貢献活動



●旧門司三井倶楽部

当社は長年、文化財・歴史的建造物の保存修理・復元事業に取り組んでいます。明治以降に建てられた近代遺産と呼ばれる建築の保存修理・耐震補強工事も多く手がけており、2022年度は福岡県北九州市発注の重要文化財・旧門司三井倶楽部の耐震補強保存修理工事が竣工しました。

城郭建築分野では、文化財天守の耐震改修工事や伝統構法による木造復元工事、伝統的な石垣の保存修理工事においても、当社の技術が高い評価を得ています。さらに、先進技術と伝統的技術を融合させた技術開発を積極的に実施しています。大洲城の3Dモデル化、伝統的建築材料の劣化状況把握・調査など、当社が蓄積してきた技術を文化財・歴史的建造物、土木構築物の保存修理・復元事業などに展開し、今後も社会貢献に役立てていきます。

## ■地域創生

2023年1月に、当社、埼玉県久喜市とエアデジタル株式会社との3社で、デジタルスポーツマシンを活用した「フレイル予防プログラム」の構築についての連携協定を締結しました。



●イベントの様子



●締結式

国内最大級のデジタルスポーツクラブ「スポーツ60&スマート」を埼玉県久喜市の大型商業施設「アリオ鷺宮」に出店し、国内で例のないデジタルスポーツを活用した高齢者の健康

維持やフレイル予防という社会的課題の解決を目指し、地域創生につながる取り組みをしています。

久喜市は、スポーツや運動等を通じて誰もが心身ともに健康となり、躍動する活気あふれるまちを目指すため、「健幸（けんこう）・スポーツ都市」を宣言し、スポーツによる豊かなコミュニケーションを通じて、世代を超えて人と人がつながり、いきいきと暮らせる都市を目指しています。

スポーツや運動を通じて、皆さまに愛される「フレイル予防プログラム」の構築に努めています。

### 本協定における連携の範囲

1. デジタルスポーツマシンを活用した市民のスポーツ実施率向上に関すること
2. デジタルスポーツマシンを活用したフレイル予防に関すること

CNCPは、  
あなたが参加し、  
楽しく議論し、  
活動する場です！

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人  
シビルNPO  
連携プラット  
フォーム

●登録事務所  
〒110-0004  
東京都台東区下谷  
1丁目11番15号  
ソレイユ入谷9F

事務局長 田中努：  
cncp.office@gmail.com  
ホームページ URL：  
<https://npo-cncp.org/>



## ▼事務局通信

### ■2月の実績

#### ●第118回経営会議

開催日・場所：2月13日（火）Zoom会議  
議題：理事会の準備確認／サロンの準備確認

#### ●R5年度第2回理事会

開催日・場所：2月27日（火）Zoom会議  
議題：R5年度上期の事業報告と下期の計画

### ■3月の予定

#### ●第119回経営会議

開催日・場所：3月12日（火）シンクーカー  
ン  
議題：サロンの段取り確認

#### ●第9回CNCPサロン

開催日・場所：3月12日（火）株式会社 アイ・エ  
ス・エス 2階会議室（フリースペース「シンクーカー  
ン」）とリモートのハイブリッド

話題：女性が働き続けられる建設産業を目指して（基  
調講演とCNCP理事参加での意見交換）

### ■現在の会員と仲間の数

●会員：賛助会員30／法人正会員10／個人正会員27  
／合計67

●仲間：サポーター107／フレンズ120／土木と市民  
社会をつなぐフォーラム15／インフラパートナー18  
／合計260

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいた  
だいています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発  
／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイ  
アート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シン  
ワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹  
中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島  
建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサル  
タンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田  
建設工業（以上30社）



土木と市民社会を  
つなぐフォーラム



インフラパートナー  
JSCE 土木学会